

池袋本町をプレーパーク！？

プレーパークとは

プレーパークとは、冒険遊び場とも言われています。普通の公園では例えば穴を掘ったり、小屋を建てたり、火を燃やしたりということは禁止されていますが、子供達がやりたいと思ったことをできるようにして、創造力や生きる力を育む場所として作られているのがプレーパークです。日本では世田谷区で最初に取り組みがはじまり、特に羽根木プレーパークが有名です。その後全国各地にプレーパークが作られています。

プレーパークでは、いろいろな遊び方を子供たちの年齢や技量に応じて、工夫しながらやることができます。当然、遊びによっては危険なこともあります。プレーパークでは自己責任が基本になります。ただし、子供だけにはしないで、プレーリーダーという見守り役の人がついている場合が多くあります。また、プレーパークの運営には地元の方々の理解と協力が不可欠です。世田谷区では

地元の方々がプレーパークの会という組織をつかって積極的にかかわっています。

区制70周年記念事業として

豊島区では、区内の子供の遊び場を充実させるために、区制70周年記念事業としてプレーパークをつくる計画を立てました。区内に検討委員会をおかれ、事業の進め方と場所の選定が行われました。最初の検討が行われたのは今年の4月で、6月末には結論が出されています。この時点で場所は、区内の多くの候補地から、池袋本町公園と防災

おとな会議	子ども会議		
地元町会	2名	地元小学生	6名
地元小学校PTA	2名	公募小学生(全区)	6名
育成委員会	1名	6(～10)名	
防災ひろばの会	2名	子ども青少年会議	3名
防災まちづくりの会	2名	児童館職員(オブザーバー)	3名
公募(全区)	10名		
学校長(オブザーバー)	3名		

ひろば(4000㎡)、防災センター用地(2000㎡)のいずれかと決められました。

検討会の結果を受けて区では、広報で検討のための参加者を全区を対象に募集し、8月9日に第1回の会議が開催されました。会議はおとな会議と子ども会議に分けられ、左記のメンバーによって構成されると発表しました。

2つの会での意見

防災まちづくりの会と防災ひろばの会には、7月17日に、正式に事業の内容説明と検討会への参加が打診されました。2つの会では、急な申し入れであり、また3月19日に防災ひろばの整備について区長提言を行ったばかりでもあり、急遽、4回にわたって臨時の会を開催して対応を協議しました。防災公園や防災センターの整備に支障が出ないかが問われましたが、区からは防災を優先して整備を行い、それと整合するようにプレーパークを運営したいという説明がありました。

会では様々な意見が出され、会としての意志統一はなされていません。大きく分けると次のよう

な意見が出されています。

- プレーパークへの肯定的な意見としては
- 元気な子どもが育ち、地域の活性化にもなることなどの是非進めてほしい。
- 進め方が唐突で問題があるが、よい機会なので早く実現してほしい。
- 一方、子供たちの遊び環境としてプレーパークには賛成ですが、プレーパークの運営を含めたあり方に対して、今回の区の進め方は問題であるという意見も出されました。
- スケジュールや候補地が決定済みなど、これまでの進め方が一方的で納得できない。
- プレーパークを長期的に維持管理するためには地元の住民の理解と参加が不可欠といっているが、検討会の参加者を限定するなどやり方がおかしい。
- これまでの住民ががんばってきたまちづくり活動が理解されていない。
- 地元には話がないまま唐突に進められており、白紙に戻すべきである。

傾向としてプレーパークそのものについては異(4頁につづく)

防・災・ひ・ろ・ば・の・話・題・あ・れ・こ・れ

防災センターの検討へ

池袋本町防災まちづくりの会と本町防災ひろばの会では、2000㎡の防災センターの検討に入りました。その役割や位置付けを検討しながら、どんな施設が必要かを検討しています。

芝生を植えました

もうすでにご存知の方も多いと思いますが、本町防災ひろばの一部に芝生が植えられました。この芝生は南長崎の児童遊園から移植したものです。工事中はひろばの暫定利用が中止されました。

芝が根付くまでのしばらくの間は立入ができません。また猛暑を乗り切るためにも、毎日水遣りが必要です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

地下からコンクリートのかたまり

芝生の移植工事の際、ひろばの砂利を取り除く工事も行いました。その時に地下から旧JR職員住宅のコンクリートの基礎が出てきました。解体工事の時にすべて撤去されていなかったようです。豊島区では日本鉄道建設公団に申し入れて、取り除いてもらいました。

楽しんだ泥の感触

本町防災ひろばには今年、本格的な水田ができました。きつと豊島区で一番広い「水田」ではないでしょうか。地域の方や保護者、子ども達、そして学校職員の方を合わせてできあがった水田です。また、植えた苗は「ホテルの里江南町」からいただきました。古代米のモミも分けていただき、学校で育てた苗も植えました。

皆様のお陰で出来た水田です。しっかり管理をして、秋には黄金色に輝く稲穂を皆様にお見せしたいと願っています。子ども達の田植えの時の感想をお読みください。



6の1 中村俊昭
僕にとって田植えは初めての経験でした。最初田植えに入った時は、ズボズボと土のちよつと下るところまでつかってしまいました。小さな石や土で足にけがをしましたが、古代米を六株植えることができました。田んぼの中を歩く時、土がはねたいしましたが、ミジンコなどの生物もたくさん見つけました。みんなの植えた苗が元気に成長しておいしい古代米を食わせてくれることを願っています。

6の2 反町晃一
僕は、五年生で初めてやった時から田んぼの泥が好きになりました。だから田んぼに早く入りたくて、うかうかしてしまいました。田んぼの泥をまぜるの田植え穴をあける時の感じが良かったです。土をやる時も、泥をふんでみたいですね。成人になったら、おじいちゃんちの少し近くにある田んぼに行きたいです。

5の1 月岡幸太
田んぼをして土の中に入った時うまくバランスがとれなくて転んでしまいました。それに水を植える時、水がうまく土の中に入らなかったのが大変でした。あと土の中に入ったらくはくはくして少し気持ち悪かったです。でも楽しかったです。最後に、サンダルをぬいで水で足を洗った時、冷たくて気持ちよかったです。もうちよつと田んぼをしたかったです。またこういう機会があったらやりたいです。

5の2 片野亜紀子
私達五・六年生は総合の勉強で田んぼをしました。いろいろな作業がありました。毎日、水がたまるのが大変だったけど、毎日少しずつ、少しずつ高くなっていくのを見ることが楽しかったです。実際に水を植えてみたら土がドロドロしていて、初めはびっくりしたけど、入ってみると少し気持ちよかったです。おいしい米が収穫して欲しいです。